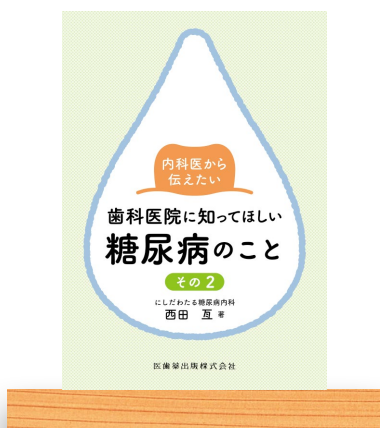


全国の講演で引っ張りだこの
『西田 互先生』の話題作 第2弾！



内科医から伝えたい
歯科医院に知ってほしい糖尿病のこと
その2

西田 互 著

B5判/108頁 定価：本体3,200円＋税
医歯薬出版（2019年5月）

愛知学院大学歯学部歯周病学講座 教授
評・三谷章雄（歯科医師）



やはりこの内科医、とんでもない！ ほんの数年前に、^{すいせい}彗星のごとく歯科界に降臨したこの内科医（注：もちろん敬意を込めて）は、全国各地での講演の嵐、そして2017年には『内科医から伝えたい 歯科医院に知ってほしい糖尿病のこと』を出版し、多くの歯科医療関係者を魅了してきた。その出版からまだ2年と経たないうちに、続編を書き上げてしまった。タイトルは……。続編であることがわかりやすすぎる「～その2」。しかし、前作を読んだ読者は皆こう思うのではないだろうか？「前作でもう書くことがないくらい、多くの“わかりやすい糖尿病の知識”と“目からウロコ”が詰め込まれていたのに、この内科医はまださらに、何を伝えたいというのであろうか？」と。私自身、い

ち読者として、そういった疑問と同時に、また筆者の作品を読めるという期待、そして、どうか2巻目でスベらないでください……という願いを込めて、本書のページを開いてみた。

その答えは……本当に「すごい！」の一言。とにかく、筆者の頭のなかは、いったいどうなっているのだろうか。前作でネタが枯渇するどころか、まだまだおもしろい！ さらに、筆者の講演のごとく、本書からも筆者の一貫した、患者さんと歯科への熱い想いがグイグイ伝わってくる。それを垣間見られる部分として、本文中あるいは「Dr. にしだの勘所！」には、患者さんにそのまま使えるメッセージが散りばめられている点も見逃さないでほしい。唯一気になるのは、筆者の似顔絵が実物と比べて有意に可愛らしいと思える点だが、皆さんもぜひ、講演等で実物と比較していただきたい。

前作は、糖尿病の知識と勘所を中心にすえ、歯科と全身の関係に至るまで、歯科衛生士にもわかりやすく解説していたが、本書はもっとぐっと歯科寄りの視点で、糖尿病と口腔の関係を語りかけてくれる。また、歯を残すことがどういうアウトカムにつながっていくのかを内科医である筆者が紐解いていくところもおもしろい。そして、それらには数多くのデータが紹介されており、それぞれの話題を読み進める際に、一つひとつ腑に落ちながら、気持ちよく理解できていく痛快感さえ感じることができだろう。

日々、患者さんに耳を傾け、患者さんをアシストしながら歯周治療に取り組み、歯科医師以上に患者さんの支えになっている歯科衛生士は数多くいるが、本書は、そんな一生懸命な歯科衛生士、あるいはそうなりたいと思っている歯科衛生士、そして歯科医科連携（注：本書中の用語）でのヒントを求めている歯科衛生士にとって、マストな一冊になるであろう。